

平成 21 年 3 月

周藤 豊 学位論文審査要旨

主 査	中 島 健 二
副主査	岸 本 拓 治
同	渡 辺 高 志

主論文

高齢者における脳梗塞の急性期病院退院時の移動能力重症度と3年後の生命予後に関する
検討

（著者：周藤豊、古和久典、中安弘幸）

平成21年 米子医学雑誌 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、山陰地方における4ヵ所の急性期病院において急性期脳梗塞患者を登録し、前向きに追跡調査を行い、退院時の移動能力を独歩、介助歩行、車椅子、寝たきりの4段階に分類し、移動能力重症度と3年後の生命予後との関連性について検討したものである。その結果、移動能力重症度が高いほど、3年後の死亡率は有意に高いことが判明した。本論文の内容は、急性期病院では患者のADL低下を阻止するよう努力することが重要であり、リハビリテーションも含めた急性期治療が長期予後改善の点からも極めて重要であることを示唆するもので、明らかに学術水準を高めたものと認める。